

状況に応じた行動を

内閣府より発表された「大雨災害における避難のあり方等検討会報告書」によると、避難の時期、方法、場所が適切でなかったことで被災した事例が数多く発生しています。

避難のイメージとして、避難所として指定している小中学校などの公的施設へ移動することが最善だという固定概念で、夜間の降雨時や道路が浸水しているような悪条件のなかで避難して被災した事例が多いのが現実です。早めの行動が一番ですが、見通しの悪い夜間や道路の冠水などの危険な状況下や、がけ崩れや土砂流発生のおそれがある場所を通過しての避難はできるだけ避けて、自宅や隣接する2階以上の建物に一時避難する選択枝も考えなければなりません。



大雨に対する対応

- ・ 気象情報や災害情報に十分留意して、一人ひとりが状況に応じて自ら判断する。
- ・ 危険箇所の把握が困難な場合は、屋外での移動は極力避ける。
- ・ 道路が浸水しているときなどは、自動車による避難は極力避ける。
- ・ 指定された避難場所への移動だけでなく、自宅の2階等へ緊急的に避難し救助を待つことも選択枝とするなど、状況に応じた適切な判断と行動をする。



(※内閣府防災情報のページより抜粋)

マイ・タイムラインを作成してみよう！

マイ・タイムライン（国土交通省）

<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/index.html>

マイ・タイムラインとは、住民一人一人が作成するタイムライン（防災行動計画）であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇するときに、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、避難行動するための計画です。



QRコードはコチラ

逃げキッド（小中学生向けマイ・タイムライン検討ツール）

<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/pdf/nigekid.pdf>

小中学生向けのマイ・タイムラインです。



QRコードはコチラ



必要な情報を収集し、いざという時に適切な判断と行動ができるよう、日頃から災害に備えていることが大切です。